

へき地における新たな医療モデルの開発



菊地 正史

教授 博士（薬学）

Masafumi Kikuchi

医学系研究科 医学専攻・医科学専攻 薬剤学講座

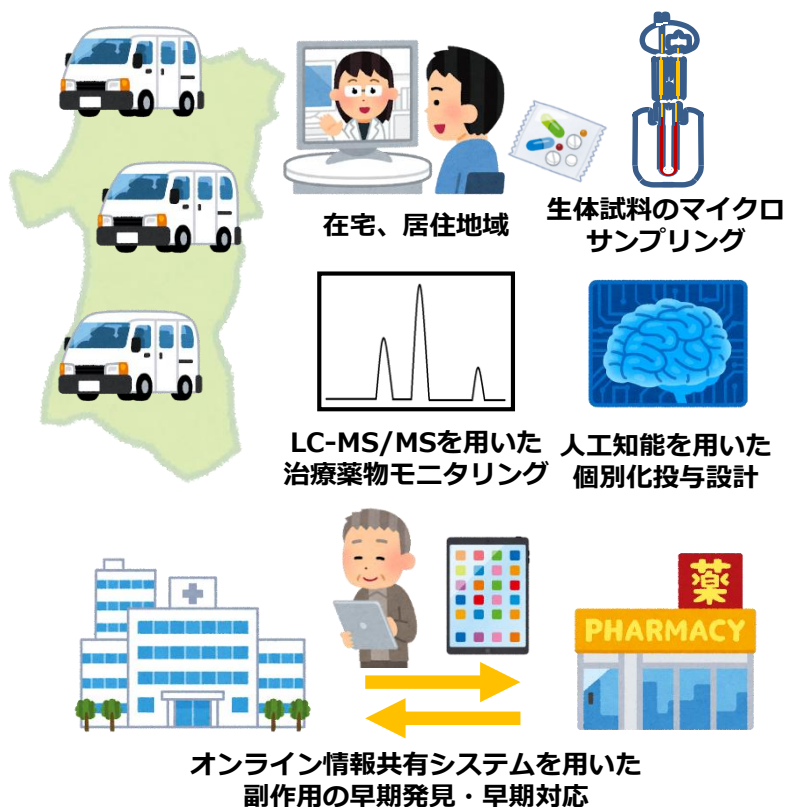
研究キーワード

へき地、マイクロサンプリング、治療薬物モニタリング、人工知能、副作用

研究概要

超高齢社会において、病院への移動が困難な患者が増加している一方で、へき地における医師不足が大きな課題となっています。その解決策として、遠隔医療をはじめ、患者の居住地域における新たな医療モデルの開発が求められており、バイタルサイン/生体情報モニタリングのテクノロジー、ビッグデータと人工知能を活用した個別化医療、医療情報の「見える化」と「医療施設間連携」の推進などが不可欠となります。

そこで、生体試料のマイクロサンプリング技術と液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法（LC-MS/MS）を用いた治療薬物モニタリング、人工知能を用いた個別化投与設計、オンライン情報共有システムを用いた副作用の早期発見・早期対応など、へき地における新たな医療モデルの開発を目指しています。



予想される応用例

- 分散型臨床試験における薬物動態解析
- 在宅における治療薬物モニタリング
- 医薬品の新たな副作用シグナル検出手法

産業界へのアピールポイント

へき地における新たな医療モデルの開発により、本邦の医療の発展に大きく寄与することが期待されます。